



京都市立吳竹総合支援学校
令和 7 年 2 月 吉 日

令和 6 年度 後期学校評価アンケート結果報告

1 実施期間

令和 7 年 1 月 14 日～1 月 24 日

2 対象

保護者（小学部、中学部、高等部）

児童生徒（小学部、中学部、高等部）

教職員（管理職を除く全教職員）

3 実施方法

○保護者・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

紙媒体での回答もしくはアンケートフォーム

○児童生徒・・・各項目について「実現度」を 3 段階で回答

紙媒体での回答もしくはアンケートフォーム

○教職員・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

アンケートフォームでの回答

4 回答率

	保護者 225	児童生徒 225	教職員 160
回答数	前期 151 (67%)	前期 56 (25%)	前期 145 (93%)
(回答率)	後期 144 (64%)	後期 76 (34%)	後期 157 (98%)

5 アンケート項目について

「令和6年度京都市立吳竹総合支援学校グランドデザイン」に沿って、前期同様に選択形式と自由記述でアンケートを作成した。

学校教育目標である「社会参加し、自分らしく生き生きと活動したいという児童生徒の願いの実現」を目指し、大切にしたい言葉「やってみたい」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」の視点で授業を見つめ直すことで、より魅力的な授業実践につながるのではないかという仮説のもと研究にも取り組み、校内で成果報告会も実施した。

今年度の研究テーマ

「ウェルビーイングな学校を目指して」
～新たな、自由な発想での授業研究を通して、児童生徒の
「やってみたい」「なんとかなる」「ありがとう」「自分らしく」の姿を引き出す

新校舎への移転や解体工事、新設工事が続いている中、環境面においては活動場所の確保等課題はあるものの、令和8年度中の完成予定に向け、新たな場所で吳竹の子どもたちの強みを生かし、地域とともに成長できる学校運営を目指して引き続き取り組んでいきたい。



6-1 実現度に関する分析結果 [保護者、教職員]

表では、保護者（各部、全体）・教職員のアンケート結果より、肯定的な選択項目となる「よくできている」「大体よくできている」の回答を合わせた割合（%）を示す。また、数値は**前期/後期**、矢印は**前期と比較した増減**を表す。※項目 12～16 教職員のみに尋ねた項目も同様に示す。

質問項目	実現度				
	小	中	高	保護者 (全)	教職員
1.学校は、子どもたちの思いや反応をていねいに受け止められている	98/98 ↗	97/98 ↗	95/94 ↘	97/96 ↘	96/99 ↗
2.学校は、子どもたちがいろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる	92/96 ↗	100/97 ↘	97/98 ↗	96/97 ↗	96/97 ↗
3.学校は、子どもたちが「やってみたい」と思える学習に取り組んでいる	92/98 ↗	89/92 ↗	90/88 ↘	90/93 ↗	93/93
4.学校は、子どもたちが自分なりの方法で思いや考えを伝えられるように取り組んでいる	92/100 ↗	92/92	96/92 ↘	93/95 ↗	98/96 ↘
5.学校は、子どもたちの願いや目指す姿を本人や保護者と共有している	98/94 ↘	97/95 ↘	95/94 ↘	97/94 ↘	93/90 ↘
6.学校は、子どもたちが役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる	96/96 ↘	95/94 ↘	91/94 ↗	94/95 ↗	96/98 ↗
7.子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている	94/93 ↘	94/94	87/92 ↗	92/93 ↗	97/97
8.学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる	96/92 ↘	92/97 ↗	96/92 ↘	95/93 ↘	93/95 ↗
9.学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている	98/95 ↘	100/98 ↘	95/92 ↘	98/94 ↘	90/91 ↗
10.学校は、外部関係機関や地域との連携を大切にしている	86/95 ↗	86/87 ↗	80/78 ↘	84/88 ↗	87/89 ↗
11.学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている	98/100 ↗	97/98 ↗	97/92 ↘	97/96 ↘	95/96 ↗

12.生活を豊かにする手段として、情報端末機器を積極的に活用している	↙	↙	↙	↙	85/87 ↗
13.子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを評価し、授業改善につなげている	↙	↙	↙	↙	85/87 ↗
14.地域の学校園・施設等への支援など育支援センターとしての役割を果たしている	↙	↙	↙	↙	77/74 ↘
15.組織的・効率的な業務の見直しに向けて、意見交換し合える風通しのよい職場である	↙	↙	↙	↙	81/81
16.ライフ・ワークバランスを意識できている	↙	↙	↙	↙	73/66 ↘

<分析結果>

- 全体を通して大幅な増減はみられず、前期同様に概ね 90%を超える実現度を得ることができた。
- ・項目 5について、各部前期を下回る結果となった。学年末懇談を控えているため、1年間をともに振り返りながら「三者の願い」「長期・短期目標」「現在の姿」など次年度に向けて共有していきたい。
 - ・項目 9について、各部前期を下回る結果となった。自由記述にて、お便りやホームページの頻度等が学年によって異なるといったご意見もあった。今年度より保護者連絡ツール「すぐーる」を活用し、宿泊学習や修学旅行等の宿泊行事は、終了後にまとめて該当学年へ配信する等の手法も取り入れている。「紙」「ホームページ」「すぐーる」等それぞれ異なる発信媒体を使い分けながら、引き続き日々の教育活動を発信していきたい。
 - ・項目 10について、それぞれ大幅な増減はないものの、他項目と比べると全体的に低く 90%を下回る結果となった。自由記述にて、本児だけではなく家族への配慮やサポートに対する感謝のお言葉等も見られた。“生涯にわたって”という視点を大切に、関係機関とのつながりについては強化していきたい。また、新校舎完成を控えている今だからこそ、地域で活用可能な社会資源の整理もしていく必要がある。
 - ・項目 11について、子どもたちが安心安全に学べる環境は、すべての項目につながる根幹となる部分なため、引き続き大切にしていきたい。
 - ・項目 14について、70%台と他項目よりも低く、「わからない」といった割合が約 20%ほど占め、前期とほぼ変わらない結果となった。育支援センターの役割について具体的に明記するような聞き方にも工夫が必要かもしれない。互いの分掌に興味関心を持てることで教職員同士の交流を増やし、困った時に聞きやすい風通しの良い職場づくりにもつなげていきたい。
 - ・項目 16について、前期よりも数値が下がり、かつ全項目でも最低数値となった。電話対応時間（月火水木 7:30～18:00、金 7:30～17:30）や開閉門時間（月火水木 7:15～19:00、金 7:15～18:00）の見直し等、働き方改革を受けた取組もあるが、業務量自体に変化はあまり見られないといった負担感が自由記述からも読み取れた。“働きがい”や“働きやすさ”、それぞれを兼ね備えた職場づくりに引き続き尽力していきたい。

6-2 実現度に関する分析結果 [児童生徒]

児童生徒へは、アンケートフォームもしくは紙媒体での回答を求めた。回答は「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の3段階から選ぶ形をとった。児童生徒の実態に応じて、本人による回答、担任による聞き取りでの回答等で行っている。

表では、児童生徒のアンケート結果より、小学部・中学部・高等部の「そう思う」の回答を合わせた割合(%)を示す。また、数値は前期/後期、矢印は前期と比較した増減を表す。

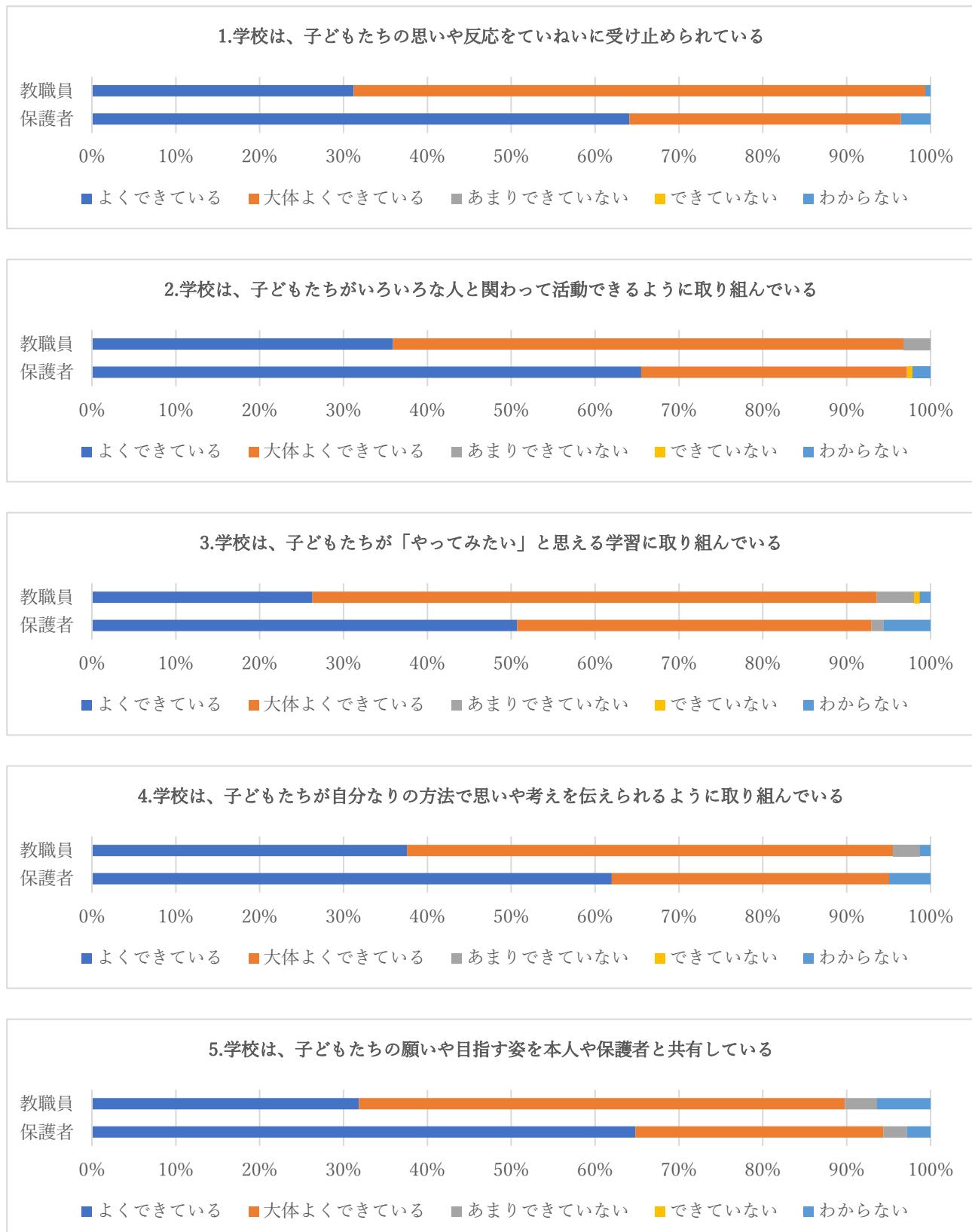
	そう思う
1.自分の心や体を大切にしている	68/80 ↗
2.友達と仲良く過ごせている	89/92 ↗
3.学校で「やってみたい」と思える活動がある	63/73 ↗
4.困った時など先生に相談している	70/81 ↗
5.こんな自分になりたいという願いや夢をもっている	66/69 ↗
6.学校で決まった役割がある	75/90 ↗
7.自分なりの方法でいさつができる	75/82 ↗
8.ルールや約束を守って行動できている	77/86 ↗
9.授業や活動の内容が理解できている	73/86 ↗

<分析結果>

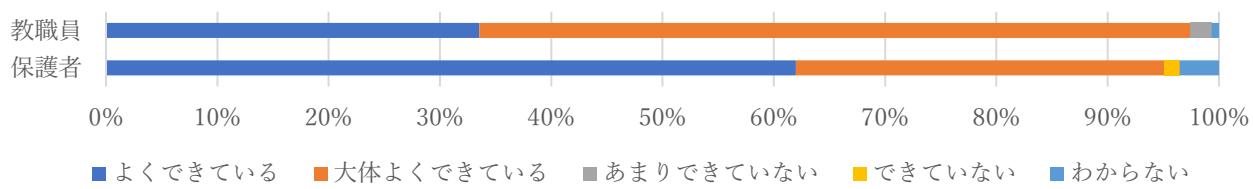
全項目、前期よりも「そう思う」の割合が高い結果となった。項目1について、前期よりも数値が大きく伸びており、心身ともに充実している様子が伺える。また項目6は、前期からの増加率が全項目で一番大きい項目となっており、役割活動の充実が項目1に連動しているようにも読み取れる。この役割活動については、回答者の多くは高等部生徒ではあるが、小学部段階から“自分の役割”に取り組む姿はたくさん見られる。給食カードを安心できる友達や先生と運んだり、健康観察カードを一人で保健室へ運んだり等。学校での役割、ご家庭での役割、高等部卒業後は社会での役割など、“役割活動”はこれからますます広がりを見せていく。積み重ねた経験や身に付けた自信を、人や場所が変わっても自分らしく発揮できる“確かな力”へつなげていく必要がある。

前述した通り、今年度の研究テーマのキーワードは“ウェルビーイング”である。全項目実現度が高くなつたことから、児童生徒のウェルビーイング向上↗↗につながっていると考える。学校評価アンケートは、日々の取組をそれぞれの立場から振り返り、これからできることは何か?みんなで考えていく機会となり得るものである。引き続き、子どもたちの「やってみたい」「なんとかなる」「ありがとう」「自分らしく」の力を育んでいきたい。

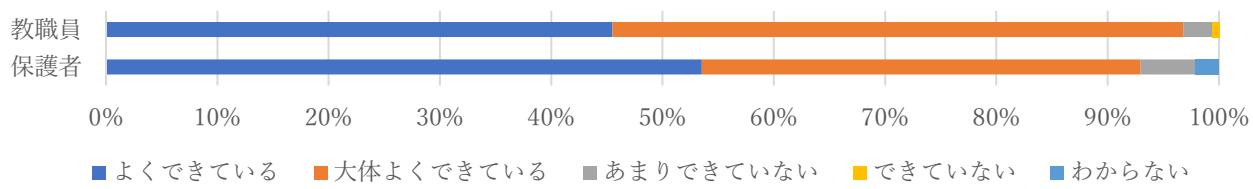
7-1 実現度比較



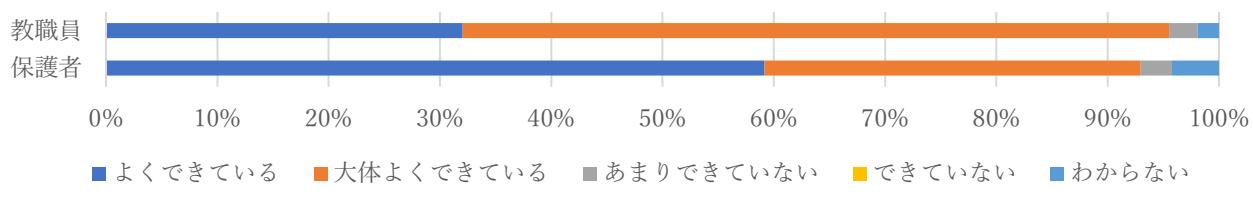
6.学校は、子どもたちが役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる



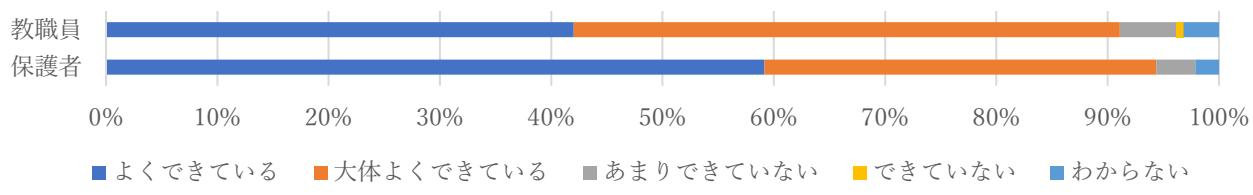
7.子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている



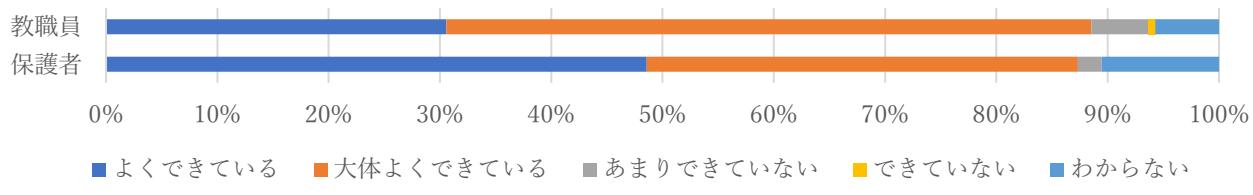
8.学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる



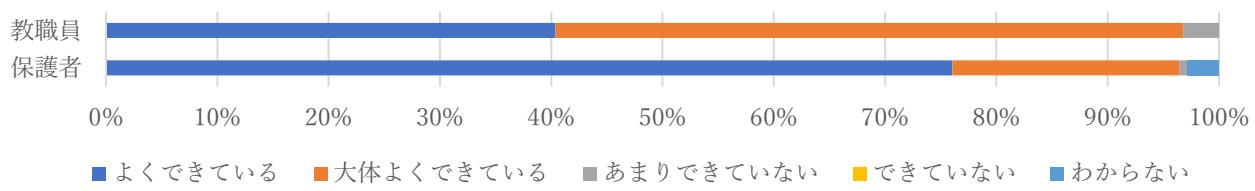
9.学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている



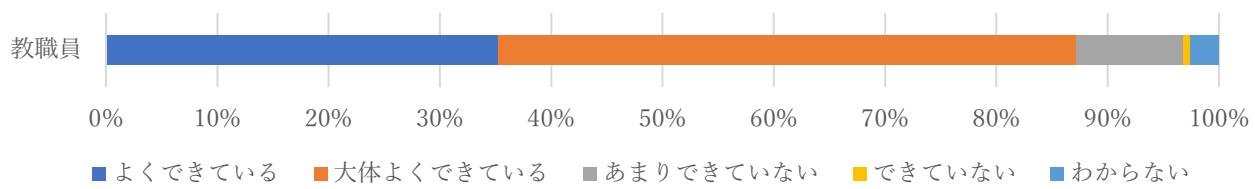
10.学校は、外部関係機関や地域との連携を大切にしている



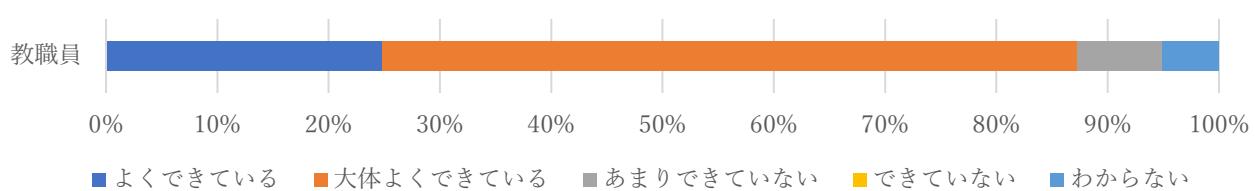
11.学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている



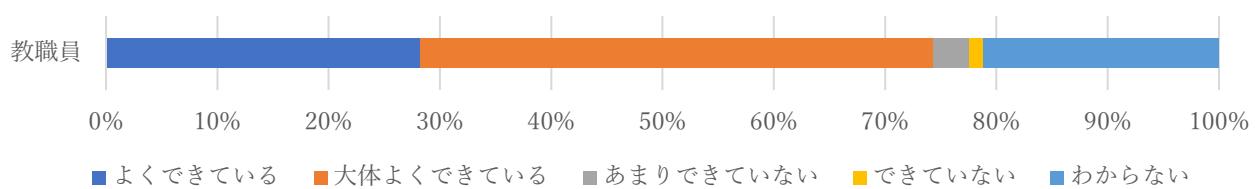
12.生活を豊かにする手段として、情報端末機器を積極的に活用している



13.子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを評価し、授業改善につなげている



14.地域の学校園・施設等への支援など育支援センターとしての役割を果たしている



15.組織的・効率的な業務の見直しに向けて、意見交換し合える風通しのよい職場である

